

石原莞爾 いしはら けんじ 舊陸軍軍人。明治二十二年一月十七日山形縣生乳、

昭和二十四年八月十五日歿（六六—一九〇）。陸軍士官學校、陸軍大學
校卒。大正十年陸大兵學教官、昭和二年關東軍參謀（中佐）、六年滿
洲事變を主導。その後滿洲建國、協和會創設の中心人物となる。十六
年中將の豫備役に編入後は、東亞聯盟を率ゐて東條政権批判に當る。

著書 『世界最終戰論』（東亞聯盟協會關東事務所編、昭和十五年九月

二十日と命館出版部。再刊・十七年四月八日新止堂）、『國防政治論』

（昭和十七年十月十日聖紀書房）、『昭和維新宣言』（昭和十七年十

月二十日山形・東亞聯盟同志會置賜分會聯合總會）、『教育革新論』

（昭和十七年十一月十五日言靈書房）、『マイン・カンパ批判—國民

社會主義ドイツ労働黨初期の運動』（昭和二十年五月二十日東亞聯

盟同志會）、遺稿 『戰争史大觀の說明』（伊藤忠治編、昭和二十八年

九月二十日協和實業社）、『最終戰争論・戰争史大觀』（平成五年七

月十日中央公論社「中公文庫」）等。

文獻に、東亞聯盟協會編『世界最終戰

と東亞聯盟』（昭和十六年七月二十日

日と命館出版部）、『協和會戰争論』

（滿洲帝國協和會哈爾濱市本部「戰争

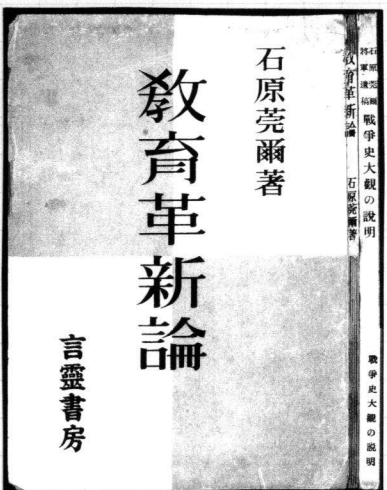
學研究資料」。無署名無記年）、樺山

潤著『石原莞爾』（昭和二十五年十一月十五日新陽社）、山口重次著

『悲劇の將軍石原莞爾』（昭和二十七年一月十五日世界社）、同『米

るか、世界最終戰争—石原莞爾將軍の宣言』（昭和二十四年六月一日

国民タイムズ新社出版局）、白土みどり著『最終戰争時代論—石原莞



爾の思想』(昭和四十六年三月二十日大阪・邦文社)、青江舜一郎著
 『石原莞爾』(平成四年七月十日中央公論社「中公文庫」)、野村乙
 一朗著 『石原莞爾——軍事イデオロギストの功罪』(平成四年十二月
 二十日同成社)等。

